



TABUSE

Public Relations No.959

特集：「移住への取り組み」 この町に住む理由。



8

2016 笑顔と元気あふれる住みよいまち田布施

特集

移住

この町に住む理由。



なぜ？

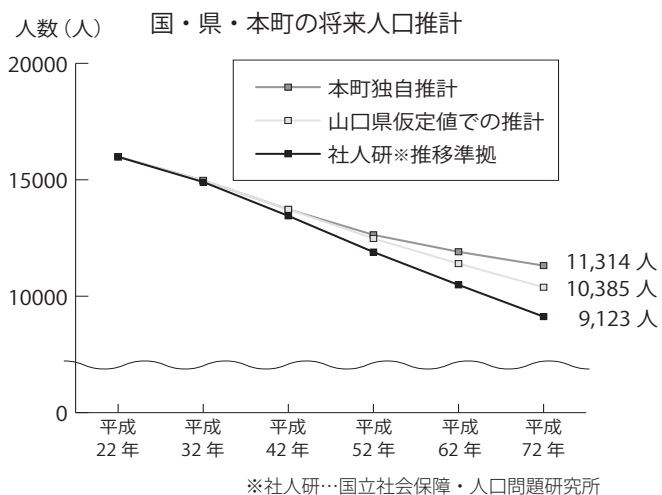
移住に
取り組む理由。

日本の人口は、年々減少している。もちろん、田布施町も例外ではない。人口が減少するということは、この『田布施』という町の時間や空気を動かす人々が減っていく——つまり、町の活力がなくなっていくということだ。

「携帯電話ですぐ連絡が取れる」「家の中で十分遊べる」「ご近所付き合いはちよつと……」といったように、今、人と人が顔を合わせるコミュニケーションが減っており、地域コミュニティの縮小が危ぶまれている。こうした中で人口減少が進むと、町の元気を生み出す『人』というそもそもの根源を失っていくことになる。

そこで力を入れているのが、『移住』だ。町外から町内へ移住してくる人。戻ってくる人を増やすため、町ではさまざまな事業を行っている。

今回は、田布施町に移住してきた人たちはなぜこの町を選んだのか、田布施町の魅力とは何かを考え、町の移住事業とともに『移住から見た田布施町』についてひも解いていく。



平成27年国勢調査によると、田布施町の人口は現在1万5325人。前回の平成22年国勢調査から661人の減となっている。

国が示す平成72年の田布施町の推計人口は9123人だが、昨年策定した田布施町人口ビジョンでは、人口減少を抑制する施策を実施して約1万1000人の人口維持を目指すこととしている。

知りたい

田布施町の人口推計。

中から見た田布施。

馬島に移住して、4年目。藤田敬太郎さん・枝里香さん夫妻は、地域おこし協力隊の任期後も、新たに授かった小さな命とともに馬島で暮らしている。

「この町で、この島で、生きる。」——人生における大きな決断をした、2人の現在とは。



地域おこし協力隊の活動を経て田布施町に定住されましたが、その理由・決定打は何ですか？

枝里香さん（以下・枝）「人と場所の魅力に魅せられました。」

敬太郎さん（以下・敬）「馬島で結婚した時点で、ここで暮らすことを前提に進めていたし、子どもが生まれたことも大きかったですね。」

枝「かわいがってくださる近所の人や町内の方がたくさんいて、とても頼りになるし、安心した気持ちで定住できました。」

田布施町に移住してよかったと思うところは？

枝「食べ物おいしい！安全で新鮮なものが手に入りやすい。よく交流館で買います。」

「もぐもぐ」や「うましまこどもキャンプ」など、馬島の新たなイベントを企画したのは？

敬「協力隊のときに島に人を呼び込むために何をしようか考えていて、最終的に落ち着いたのが収穫と手作りクッキングができる『もぐもぐ』です。『うましまこどもキャンプ』は、僕たち2人とも子どもが好きなので、自然の中で思いっきり遊んで、子どもたちがちよつとたくまし

ななって帰れるようなイベントがしたいと思い、始めました。」

母親となった枝里香さんにとって、田布施町はいかがですか？

枝「子どもが歩き回るようになったら、この環境はすばらしいものになると思います。独り占めするのはもったいないです。他にも馬島に友達ができたらいいな。親子で散歩会とかしたいです。」

馬島での生活は大変ですね。

枝「乳児がいるとちよつと大変です：買い物とか。でも、都会だともっとイライラした子育てになってたかもしれない。のびのびとした中で色々な人にかわいがってもらえて、本当に良かったです。ストレスなく生活できています。」

移住してきたおふたりに、町民のみなさんはどのように接していましたか？

敬「最初は、僕たちもみなさんもお互いの距離感が掴めないということがありました。今は色々な人が親近感を持って接してくださり助かっています。」

移住後、一番の思い出は？

枝「やっぱり結婚式かな。自分たちが惚れ込んだ土地で、こちら

藤田 敬太郎 さん（右）
枝里香 さん（左）

平成25年、本町初の地域おこし協力隊員として田布施町に移住。馬島・麻里府地区を中心に活動した。平成26年に結婚、第一子が誕生。現在は任期を終え、個性や経験を活かした仕事をしながら馬島に定住している。
HP <http://umashima.web.fc2.com/>



夜もみんなで楽しみました！



収穫物を持つと自然と笑顔に。

『うましまこどもキャンプ』こどもの力は無敵大！みんなで力を合わせ、小さな島で楽しいのびのびキャンプ。次回の開催は未定。

EVENT
うましまCOLOR主催
『収穫体験&野外クッキングもぐもぐ』
農薬を使わずに育てた野菜を収穫し、調理して味わう。次回は「さつまいも」。10月に開催予定。

外から見た田布施。

田布施町出身の映画監督である片元亮さんは、昨年、町が募集した合併 60 周年記念自主企画助成事業により、田布施町の CM を製作した。

田布施を離れ、約 20 年。現在、東京や関西で働く片元さんにとって、ふるさと・田布施はどう見えているのだろう。



なぜ田布施町の映像を撮ろうと思ったのですか？

「田布施町観光協会の宮本（陽介）さんがきっかけ（合併 60 周年記念自主企画助成事業）をくれたんです。彼は僕の映画の仕事に応援してくれていて、「いつかお互いのやれることで一緒に何かしたいね」「2 人とも田布施出身だし、田布施に何か還元したいね」という会話から、今回の製作に至りました。」

自分の育った土地で撮影したときの心境は？

「『田舎あるある』だけど、約 20 年経って戻ってきてても田布施は景色が変わらないので、懐かしかった。撮って思ったのは：こんなに画になる町はなかなかないですよ。実際にカメラを添えて、ファインダー越しに覗いてみた田布施は異質。その土地の持っている力を感じます。田布施駅を撮っているだけ、馬島への渡船場を撮っているだけで、この町は映画や写真で捉えらるるとこんなに多角的に見える町なんだなって思いました。」

たしかに、映像で見る田布施町はいつもと違う感じがしました。「どんなにこちらが技術を駆

使って映画っぽくしようとしても、その土地のポテンシャルが高くなければ平坦な画になりません。でも、田布施で撮った映像はすべてのカットが映画の風景のようで、土地の持つ力がにじみ出ていました。僕はここが好きだし、土地も僕のことを好いてくれているのかな、と。この町で映画のロケができればいいなと思います。」

複数のスポットで撮影されていましたが、どこが一番「いいな」と思いましたか？

「やっぱりさくら橋かな。一番苦労しなかったです。2 人が並んでいるカットは、カメラを置いてすぐ、ここだ！と思いました。」

どのような思いを持って製作しましたか？

「まずは、田布施町を知ってもらわないといけないと思いました。移住というキーワードで考えても、まず田布施町という名前、田布施町という土地があつて、そこが『素敵な可能性のあるまち』だということを提示することが、一番重要だと思います。」

今後はどのように田布施町と

関わっていききたいですか？

「叶うならば、田布施で仕事をしたいんです。「なぜ月に 1 度は地元に戻るんですか？」って聞かれたら「田布施でも仕事してるんだよ」って言いたい。この町が好きなんですよね。田布施で映画が撮りたいです。」

どんな映画が撮りたいですか？

「余すことなくこの町のいいところを撮りたい。他人から見たら普通場所でも、僕ならきれいに撮れると思います。内容は：この町を何とかしたい、変えたいと思う我々世代や若い世代の物語がいいな。」

最後に、田布施町の良いところや好きなところは？

「好きなところは人です。良いところは災害が少ないところ！（笑）」

映画監督 片元 亮 さん

田布施町出身。田布施西小学校、田布施中学校、熊毛南高等学校を卒業。映像への興味から大阪芸術大学に進学し、同大学院修士課程を修了した後、短編映画『キラキラ』や長編映画『ストロボライト』など複数の中・長編映画を製作。国内外の映画祭で数多くの賞を受賞している。

CM
〓 片元亮監督作品〓

『田布施町 CM さくら橋編』

さくら橋で佇む男女。1 人は田布施町に住んでいる少女、1 人は旅人だ。桜の咲いていない河川敷を眺める旅人は、春の景色の美しさを伝える少女の声に耳を傾ける。

『田布施町ってどんなところだろう？』と検索したくなる作品。

田布施町 HP にて、8 パターンの CM を順次公開予定。



季節は冬。寒い中で CM 撮影を行いました。

田布施町が取り組んでいる、『移住』に関連する事業をまとめた。
中には町民のみなさんに役立つ事業もあるので、必見！



移住イベントで田布施町をPR



おいでえで行われるフリーマーケット



田布施倶楽部とふるさと寄附金のパンフレット

【経】 IJU 推進協議会の設立

田布施町への移住推進、定住人口の増加、地域の活性化を目的とし、平成 27 年 10 月に設立。

主な活動内容は、田布施町への移住を考える人のサポートや県外へ向けた町の PR、お試し暮らしツアーの企画・運営、関係団体と連携した部会の設置やイベントの運営など。ホームページ…<http://www.tabuse-iju.net/>

【経】 お試し暮らし住宅「おいでえ」の活用

昨年田布施町スポーツセンターのそばに整備された、お試し暮らし住宅「おいでえ」。移住を考えている人に短期間滞在してもらい、町の環境や雰囲気、交通・商業・医療の現状などを知ってもらうことで、移住の促進を図る。

また、新たなイベントスポットとしてイベントを開催しているほか、研修施設などとしても活用する予定。

【企】 田布施倶楽部の創設

地方創生の一環として、町の知名度を上げることで移住・定住者や企業誘致の増加を図るため、平成 27 年 11 月に創設。

現在は田布施倶楽部 Facebook の更新、会報の製作、ふるさと寄附金の PR などを行っている。

現在、倶楽部会員を募集中。入会は無料。

【企】

総務企画課 企画係

☎ 52 - 5803

住宅取得等への補助は、移住者だけでなく町民のみなさんも対象となる場合があるのをご存じですか？補助を受けることができるか？気になる人は、ぜひご相談くださいね。

また、田布施倶楽部の Facebook ページでは、町のイベント情報・観光スポット・町中でのエピソードなどを掲載しています。色々な視点から町の情報を知りたい人にオススメです！



QR コード



お試し暮らし住宅「おいでえ」は、移住希望の人だけでなく、町内の各種団体もご利用いただけます！会議室としての使用はもちろん、イベント会場として、合宿施設としてのご利用も可能です。

また、たぶせ IJU 推進協議会の Facebook ページを立ち上げました。田布施の移住情報を掲載していく予定です。下記 QR コードよりアクセスしてみてください。



QR コード



【経】

経済課 地域振興係

☎ 52 - 5805

移住事業を活用しよう！

町が取り組んでいる移住事業を紹介します！

空き家バンク【経】

町内の空き家の登録・紹介を行っている。

現在借り手を募集している物件は3件。それぞれの空き家の所在地・状態などは、町とIJU推進協議会ホームページの「空き家情報」に掲載している。

また、空き家を借りたい！貸したい！という人は、経済課地域振興係へご連絡を。



田布施町空き家バンク登録物件

空き家バンク登録家屋リフォーム事業助成金【経】

空き家バンク登録を前提に、空き家のリフォーム費用および家具など不要物の撤去費用の一部を助成。

◇助成額

- ・リフォーム：対象費用の1/2（上限30万円）
- ・不要物の撤去：対象費用の全額（上限10万円）

※リフォームは、町内の建設業者による施工が必要。



田布施町空き家バンク登録物件

親元近居・子育て世代住宅取得応援事業【企】

○親元近居

町内に住宅取得またはリフォームし、親元同居・近居する世帯に商品券を配布。

○子育て世代住宅取得

町内で住宅を取得する子育て世代に商品券を配布。いずれの事業も、総務企画課企画係へ問い合わせを。



親元同居の様子（イメージ）

移住への想い。

今回は、わたしたちが普段接する機会の少ない『移住』について特集した。

実際にわたしたちの町へ移住される人は、新しい生活への希望とともに不安も抱えている。再びふるさとに戻ってこられる人も同様だ。新しいふるさと『田布施』で、日々笑顔で暮らせるようになるためには、わたしたちが「移住者のみなさんを受け入れて一緒に暮らそう」という気持ちを高めることが重要である。

将来にわたり、元気な地域であるために、地域が一体となって移住に取り組んでいこう。